

2023年4月9日（復活日、A年）

牧師メッセージ

「あの方はここにはおられない。」

（マタイによる福音書 28:1-10）

司祭ヨセフ太田信三

「あの方はここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。」
死は終わりではなかった。死は、神に勝てない。そして、死が悪の力の象徴であるならば、復活は人間のたくらみ、罪、そして悪霊の力を神が打ち砕かれたということです。死をも支配する神は、どのような人間よりも、そしてどんなに強力な悪にも勝る。ローマの総督ポンテオ・ピラト、ヘロデ王、大祭司であろうと、そして「十字架につけろ！」と叫んだ群衆の渦巻く憎悪であろうと、神の前には無力であること、それが明らかにされたのが、主イエス・キリストのご復活です。

死者の復活というだけなら、実はそれは、世界中の古い民話の中にいくつも見いだされる、ありきたりな話の一つです。しかし、わたしたちにとって大切なことは、他の誰かではなく、イエス・キリストが復活されたということです。主イエスは人間の悪意、恨み、嫉妬…そうしたあらゆる悪、罪によって殺されました。その十字架上の姿は、今この世界の中で、いやまさにわたしたちの日常のどこかで、人間の思惑や憎悪、利己心の中で、今この時も虐待によって殺されていく子どもの姿であり、わたしたちが当たり前のように生きているこの社会における構造的な搾取、差別によって、飢えて死んでいく人びとの姿なのです。十字架上の主イエスの姿はその小さく弱くされた命、力を奪われた人びとの姿です。神はその主イエスをこそ復活させられました。神はこれによって、ご自分が小さくされた命の側に立つことを明らかにされたのです。神は今、この時も虐待され、殺され、捨てられていく、弱く、小さな、力のない命の側にたたれる神なのです。その、主イエスをこそ、神は復活させられました。もうダメだ、の先があることを人間に教えるためです。弱くされ、力を奪われた命に、「大丈夫だ！」と、神はなんとしても希望の光をもたらしたかった。それが、主イエスのご復活です。だから、わたしたちはほかの誰でもない、主イエスのご復活をこそ祝うのです。そして、闇が支配しているかのように思えてしまうことすらあるこの世界で、小さくされた命に向かって、主イエスのご復活を告げ知らせるのです。

主イエスの復活。それは絶望の先に必ず命が用意されていることをわたしたちに約束する出来事です。もう駄目だ、の先がある。あなたの絶望に必ず光が灯される。イエス様が死んで、復活してくださって本当によかった。心からお祝いしましょう。イースターおめでとうございます。